

不撓不屈

ふとうふくつ

メッキ内製化

象印ベビー（大阪府東大阪市）の前身であるミヤギ工業所は、乳母車の販売が軌道に乗り、1970年に大阪府東大阪市の現在地に本社工場を移転した。新工場では自動化したメッキラインも設置した。乳母車の素材は鉄製パイプが中心で、メッキ加工は欠かせない。しかしメッキ業者へ外注すると、どうしても仕上がりに時間がかかってし

乳母車歩行器に発展

まう。そのため内製化に踏み切った。

「乳母車メーカーでメッキ工程を手がけたのは当社が初めてではないか」と先代社長の宮城猛は誇らしげに語る。研磨から始まり、銅メッキを

高齢女性の転用がヒント

縫ってしまえば」との提案もあった。もともと乳母車は箱形が主流だったという。ただ箱形だとママ

を縫う必要があり、それだけ作業が煩雑になる。その工程をシンプルの作業性を高めようという狙いだったが、平

差がついてしまう。

荷物を運搬

70年代まで乳母車の販売は好調だった。そんな時代にあっても、新しい動きが少しずつ出始めて

第2次ベビーブームで70年代まで乳母車の販売は好調だった

（敬称略）

象印ベビー

②

知恵と工夫発揮

またミシンでの縫製を担当していた猛の母からは、「布地をまつすぐに工夫を出しながら製

